

業務進捗を「見える化」 都築電気の導入以降の効果検証

横浜丸中青果（原田篤社長、本社〓横浜市中央卸売市場本場）は、2012年10月から都築電気（日浦秀樹社長、本社〓東京都港区）の業務ソリューション「Kit Fit（キット・フィット）」マルチエを採用している。このほど両社で導入以降の効果を検証し、取りまとめた。誰でも使いやすい安価で高性能のシステムをスムーズに導入し、業務の進捗状況の「見える化」を推進している。

【導入の背景】

それまでの自社開発の基幹システムでは、取り扱い数の増加による伝票制限数オーバーやシステム保守要員確保などの課題が予見されてきており、その回避が喫緊の課題

今回、この要件定義に対応できるソリューションベンダーの都築電気とともに、基幹システムを刷新している。

【新システムの特徴】

- ① 青果卸業務が統合されたソリューション
- ② 細かなカスタマイズが可能
- ③ 簡単な操作性
- ④ 複数拠点とのシステム連携
- ⑤ データ分析が容易
- ⑥ 旧システムからのデータ移行
- ⑦ 青果卸売業の業界業務ノウハウ

精通したベンダーであること
また、運用に合わせ画面や伝票のカスタマイズも柔軟に対応が可能というのも、他のシステムにない特長の一つ。

【導入の効果】

本システムの導入は、業務の進捗状況の「見える化」機能であり、リアルタイムで進捗状況や数字を把握、意思決定に必要な予兆を迅速にとらえ現場への的確な指示が出来ること。

メッセージなどが表示されるビギナーモードなど利用者自身が習熟度に合わせて3つの入力モードを選べるようになっていて、自身の使い勝手を設定でき、その結果、ヘルプデスクのサポート負荷も軽減できると考えた。



業務改革に威力発揮する「Kit Fit マルシエ」

伝票類の出力も普通紙出力に変更することでスキャンが容易になり、帳票の電子化、カット紙化も図られた。現場ではシステムの導入後、自然災害や事故などが発生した場合でも、フォールバックが向上し、二度打ちなどの無駄な作業が省け、その分、顧客や生産者とのコミュニケーションなど付加価値の高い業務に、より多くの時間を使えるようになっていく。

電算部門では、システム